

使命は世界中に — 熊本から世界へ挑む —

株式会社 テクサーブ



設立30周年を迎えるテクサーブの本社スタッフ。前列中央が高木進社長

半導体製造装置における総合サービス商社のパイオニアとして、設立30周年を迎える(株)テクサーブ。熊本から世界に通用する人間集団を持つ企業体として、常に新しいビジネスの領域を開拓しながら成長を続ける同社の最前線を紹介する。



石原1丁目にあるテクサーブ本社



テクサーブの大分営業所



テクサーブの中部営業所

半導体分野の総合力かし、 世界市場に挑戦

今から29年前の1988年、半導体装置の販売をはじめ各種半導体メーカーと顧客との間に生じる装置の不具合への対応や顧客ニーズを具現化する九州初の“サードサービス企業”として誕生したテクサーブ。当時は業界の先駆けとして創業した話題性から、各種メディアでも大きく取り上げられたという。創業後は自動車や家電分野をはじめとした国内半導体業界の成長を背景に事業を拡大し、今や複数の大手電機メーカーや自動車メーカーを顧客に持つほか、アメリカやイギリスにも取引先がある。同社は半導体メーカーと顧客との間に入り、半導体製造装置の販売はもちろん、自社で有する40人のエンジニア部隊による装置の保守保全を手掛ける総合力が最大の武器だ。近年では、太陽光発電パネルの販売が業績を大きく伸ばすなど、時代のニーズを捉えた新しいビジネスを積極的に仕掛けている。

同社によると、銀行などを介さず直接、海外企業と商品の取引をしている事業所は九州でも大変珍しく、まさに熊本発のグローバル企業の証といえよう。高木社長は「海外取引に関しては現在輸入が中心だが、今後はアメリカやアジアにも現地法人を作り、半導体装置だけでなく、例えば食材など

熊本ブランドの商品を海外へ売り込みたい」と将来ビジョンを語る。

「地域貢献で企業の ブランディング構築を」

海外への事業構想を描く中で、同社は地域に目を向けた活動にも力を入れている。今年1月31日には、肥後銀行が取り扱う「学び舎応援募債」1億円を発行。同募債は、発行した企業が指定する県内学校に対し、同行が発行額0.2%相当額の教材などを寄贈するもので、今回は高木社長の地元である合志市の南ヶ丘小学校に20万円相当の物品を贈った。「熊本に根付いた社会活動をこれからも進めながらテクサーブのブランディングを構築し、次の新しいビジネスチャンスをつかんでいくきっかけにしたい」と話している。

半導体分野で約30年間、事業を継続してきた同社だが、今後は他社の事業基盤を引き継ぐ形で異業種への進出も積極的に仕掛けていく方針だ。「近年は団塊世代の経営者が、後継者不足などでリタイアしていくという話をよく耳にする。また去年は熊本で震災が発生し、さらに会社をたたむケースが今後増えてくると思うが、当社がそういった会社を受け継ぎ、自社の経営資源を十分に生かして日本や世界に通用する、より大きなものに育てていければ」（高木社長）という。こういった構想も、テクサーブ

における地域貢献活動の一つの形であり、熊本の優れた技術や人材を引き継ぎ、日本はもとより世界へ展開していく同社の挑戦に、ますます目が離せない。



profile

高木 進 社長
たかぎ・すすむ / 1978年11月7日生まれ。38歳。合志市出身。東海大学第二高校卒業後、オーストラリアの「Russo Institute」に1年間留学

DATA

所在地	〒861-8046 熊本市東区石原1-2-1
TEL	096-388-0500
FAX	096-388-0503
設立	1988年3月
資本金	1千万円
事業内容	半導体製造装置の販売・保守・保全、太陽光発電パネル販売ほか
グループ売上	26億円
グループ従業員	65人
営業所	大分営業所、中部営業所
URL	http://www.techserve.co.jp

採用情報

- 応募資格 / 新卒者、既卒者
- 募集職種 / 技術職、営業、総務
- 募集人数 / 随時
- 採用担当者 / 富田 唯



明るく柔軟な社風で社員一人ひとりの個性・能力を生かせる職場環境です。最近では社員の提案で事務所内にBGMが流れるようになりました。スキルアップや海外展開を視野に入れた海外研修も実施しています。